京都大学教育研究振興財団助成事業
成　果　報　告　書

2023　年 9 月 17 日

公益財団法人京都大学教育研究振興財団
会 長　藤　　洋 作　様

所属部局・研究科　フィールド科学教育研究センター

職 名・学 年　　助教

氏　　名　　後藤龍太郎

助成の種類	**令和５年度　・　国際研究集会発表助成**		
研究集会名	14th International Polychaete Conference		
発表形式	□ 招待　・　□ 口頭　・　■ ポスター　・　□ その他（　　）		
発表題目	Evolution of symbiosis between spoon worms (Annelida: Polychaeta: Thalassematidae) and their commensal bivalves		
開催場所	Stellenbosch, Cape Town, South Africa		
渡航期間	2023 年　7 月　1 日　～　2023　年　7 月 9　日		
成果の概要	**タイトルは「成果の概要／報告者名」として、A4版１枚程度・和文で作成し、添付して下さい。「成果の概要」以外に添付する資料　■ 無　□ 有（　　）**		
会計報告	交付を受けた助成金額	350,000 円	
	使用した助成金額	350,000 円	
	返納すべき助成金額	0 円	
	助成金の使途内訳（差し支えなければ要した経費総額をご記入ください）	費目	金額（円）
		航空運賃	303,587円（303,587円）
		宿泊費	46,413円（77,400円）
		滞在費	0円（29,600円）
		学会参加費	0円
		その他	0円（36,830円）
		以上に助成金を充当	
当財団の助成について	（今回の助成に対する感想、今後の助成に望むこと等お書き下さい。助成事業の参考にさせていただきます。） 今回、国際学会の開催地が遠方であったこともあり、本助成を受けることができて、大変助かりました。ありがとうございました。		

2023 年 9 月 21 日

成果の概要/後藤龍太郎

2023 年 7 月 3 日から 7 日にかけて南アフリカ共和国西ケープ州ステレンボッシュの Stellenbosch Institute for Advanced Study において開催された 14th International Polychaete Conference（国際多毛類学会）に参加しました。この学会では、世界中の多毛類（いわゆるゴカイの仲間）および環形動物の研究者が集まり、その研究成果を各自発表するとともに、議論や情報交換を行い、研究の発展を目指す趣旨のものです。今回は 31 ヵ国から発表者が集まったそうです。元々は 2021 年頃に開催の予定でしたが、コロナ禍の影響で、繰り返し延期になってきたものが、ようやく開催されました。自分自身にとっても、久々の国際学会への参加となりました。

学会では、私は「Evolution of symbiosis between spoon worms (Annelida: Polychaeta: Thalassematidae) and their commensal bivalves」というタイトルでポスター発表を行いました。海産環形動物であるユムシ類とそれに共生する二枚貝類（イソカゼガイ亜科）についての発表です。ユムシ類は、その形態の特異性からこれまで独立した動物門と扱われてきましたが、近年 DNA 情報に基づく分子系統解析の結果、環形動物の一群であり、さらにイトゴカイ科の姉妹群であることが強く示唆されています。そのような背景から、近年ユムシ類を環形動物門内の科として扱う分類体系［ユムシ類＝ミドリユムシ科 Thalassematidae（Goto et al. 2020）］を我々が提唱し、さらにその後、この科を環形動物の多毛綱に入れることが別の研究グループによって提唱されました（Rouse et al. 2022）。このユムシ類ですが、近年私たちの調査によって、その少なくない種の巣穴にウロコガイ科イソカゼガイ亜科の貝類が片利共生しているということが明らかになってきました。今回の発表では、この共生系の成り立ちを紹介するとともに、共生貝類の多様性、宿主特異性、多様化様式や進化史などについて、幅広く紹介しました。学会では、環形動物や多毛類と他の生物との共生に興味のある研究者も多く、有意義な議論を行うことができました。また、指導している学生の口頭発表も２件あり、そちらも多くの研究者からフィードバックが得られたようで良かったです（タイトルはそれぞれ、Which sea cucumbers do worms like? Host choice of the ectoparasitic polynoid *Gastrolepidia clavigera* Schmarda 1861, Integrative taxonomy of *Eunice* cf. *aphroditois* (Annelida: Eunicidae) from Japan: comparative analysis of juvenile and adult forms and phylogenetic placement within the family）。

学会では、連日、朝から夕方まで、環形動物や多毛類を対象とした様々な研究の口頭発表・ポスター発表が行われました。合間のコーヒーブレイクでは、各国の研究者が盛んに交流し、活発な議論が行われました。学会発表では、高性能マイクロ CT を用いたウロコムシ科の形態解析についての発表や、浮遊性多毛類の種多様性の発表などが特に興味深かったです。南アフリカは景観や生物相も日本のそれとは大きく異なり、学会の合間に観察できるそういったものも生物学を研究している自分にとっては大変興味深いものでした。

今回、開催地が南アフリカということで、参加にあたり渡航費が心配でしたが、財団より発表助成をいただいたお陰で、大変助かりました。この場を借りて深く御礼申し上げます。